

## 第 50 回(2022 年度)地域安全学会研究発表会(春季)に参加しました(2022/5/20-21)

テーマ：災害科学

場 所：愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市)

5 月 20 日(金)～21 日(土)の 2 日間、地域安全学会の春季研究発表会が、愛媛大学を会場に 2 年ぶりに対面形式(オンライン併用)で開催されました。地域安全学会は、研究者、技術者、国や地方自治体の実務家などによる、自然災害や人為災害を対象として地域の安全問題に関する研究を行う学会です。

当研究所からは、村尾修教授(国際防災戦略研究分野)が学会会長として総会の議事等をつとめ、大会実行委員として越村俊一教授(災害ジオインフォマティクス研究分野)、同補佐として佐藤翔輔准教授(防災社会推進分野)が大会運営を行い、7 編の一般論文(うち、筆頭著者 1 編)の研究発表を行いました。毎年、春季研究発表会では、優れた研究発表に対して優秀発表賞が数件選出されますが、本会すべての受賞者は当研究所の教員が指導し、共著になっているものでした。発表論文は次の通りです。

### 【査読論文】

藤原叶多、村尾修：500m メッシュ地理空間情報を用いた 21 世紀日本全土の居住地災害リスク

加藤春奈、村尾修：東日本大震災前後の名取市閑上地区における居住環境評価アンケート結果報告  
※優秀発表賞

東野幹久、村尾修：東日本大震災復興事業に基づく津波被災前の高台移転による被害軽減効果—  
宮城県女川町をケーススタディとして— ※優秀発表賞

佐藤翔輔ら：語り部学習を活用した時短型・災害疑似体験学習プログラム「ツナミリアル」の  
開発と試行

渡邊勇、佐藤翔輔、今村文彦ら：発災 10 年間にみる被災地来訪者の「期待」の推移：東日本  
大震災被災地における震災学習への関心

浅利満理子、佐藤翔輔ら：震災伝承の「担い手」研修と活動評価に関する実態把握—東日本  
大震災被災地；岩手・宮城・福島 の 3 県を対象に—

竹順哉、佐藤翔輔ら：アフターファイブにおける災害対応ステークホルダーの「顔の見える関係  
構築」とその効果～よんなな防災会がつなげる防災の輪～ ※優秀発表賞

(著者名は、筆頭著者と研究所構成員のみ記載。下線は当研究所構成員)



公開シンポジウムの様子(村尾修会長による挨拶)